

【一般演題Ⅱ】

当院における内視鏡検査介助者の負担軽減への取り組み

医療法人 大光会 城北胃腸科内科クリニック

内視鏡技師 ○永廣 忠士、生田 朋美、坂本 由佳、宮崎 悦子
看護師 佐藤 恵子、内古閑まりえ、坂下 涼子、高井 陽子
医師 井戸 佑美、大門 裕貴、川上 孝男、大門 秀光

【はじめに】

当院では年間約2200件の大腸内視鏡検査（以下CS）を、基本的にミダゾラム[®]とペチジンを使用した鎮静下にて行っている。その際、無意識で体動のある患者の抑制や、CSの体位変換等を行う検査介助者の身体的負担が大きく、その負担軽減の工夫が必要ではないかと考えた。

そこで今回、「CS時の仰臥位足組み姿勢用補助具の導入」を検討した。

【目的】

CS施行時の仰臥位足組み姿勢用補助具を作成し、体位保持による介助者の負担軽減を図る

【方法】

- ①仰臥位足組み姿勢時に左の軸足が滑ることを抑制する「ノンスリップスリッパ」。
- ②「ノンスリップスリッパ」を使用しても左右のグラつきが強い場合に、足を組まずに右足の拳上に使用する「右足拳上用の足台」

以上の2点を作成し、令和3年6月～12月までの間にセデーション下で脱力状態の患者約50人に使用して検証した。

【結果】

まず、ノンスリップスリッパは、左足用のシリコン製スリッパ底面にノンスリップマットを両面テープで貼り付けて作成した。仰臥位足組み姿勢時に軸足に履かせて使用したところ、ナイロン製のストレッチャー表面でも軸足が滑ることなくなった。しかし、体重が重く足の重量がある方や股関節の柔らかい女性等は、組んだ足を支えることも大変な力を要することがあり、さらなる補助具が必要な場合もあると思われた。

そこで、足を組まずに右足拳上用のみにて検査ができるように「右足拳上用の足台」を作成した。足台はCS挿入操作に支障のない空間が確保できるように高さを検討し、最終的に25センチとなった。そこで高さ25センチの「バスタチェア」を購入して作成した。しかし、足台の上で足が転がり左右方向への不安定さが見られたため伸縮性のあるマジックテープ付きベルトを足台に取り付けて足を固定したところ、不安定さが解消され安定して使用でき、セデーション下で完全に脱力状態の患者への使用でも、ほぼ足を支える必要がなくなった。

【考察】

ノンスリップスリッパや足台を使用することで、腹部圧迫介助に集中できたり、患者さんへ不安軽減の声掛けを十分に行うことができた。これにより、CS介助者の負担軽減は勿論ながら、術者、介助者ともに検査に集中することができるため、より円滑なCSが実施できると思われた。

【結語】

「ノンスリップスリッパ」は軸足の滑りを防ぎ、「右足拳上用の足台」はセデーション下で完全に脱力状態の患者でも、ほぼ足を支える必要がなくなりCS体位保持による介助者の負担軽減に有用であった。今後さらなる負担軽減への取り組みを検討していきたい。

【〒860-0085 熊本市北区高平3丁目14-35】